

平成28年度北海道運輸交通審議会 議事概要

- 1 開催日時 平成28年6月1日(水) 14時00分～16時10分
- 2 場所 TKP札幌駅カンファレンスセンター 3階 カンファレンスルーム30
- 3 出席者 出席者名簿のとおり
- 4 議事
 - (1) 会長に石井委員、副会長に岸委員を選任
 - (2) 以下について、事務局から説明後、議論
 - ①「北海道交通ネットワーク総合ビジョン」の重点プロジェクトの推進状況について
 - ②「地域公共交通検討会議」の検討状況について

(主な意見)

- 1 交通ネットワーク総合ビジョンの推進状況について
 - バス、トラック等の運輸業界では運転手不足が深刻であり、人材確保のためには労働環境の改善が必要。労働時間の短縮という意味でも目的地までの到達時間短縮につながる高速道路等の道路環境整備が重要。
 - 北海道新幹線の開業効果を持続させるためには、情報発信等の継続的な取組が必要
 - 函館から釧路など道内の都市間を結ぶ航空路線の開設や在来線の魅力を高める取組について検討が必要。
 - 障がい者の立場で見ると、新千歳空港の駐車場確保やバス車両の段差解消など課題が多々ある。一步一步改善に向けた取組が必要。
- 2 地域公共交通検討会議について
 - 地域公共交通網を考える上では物流の確保といった観点も重要。
 - 公共交通の利用が進まないのは、乗り方が分からないことも大きな要因。観光客に利用していただくことも重要だが、生活者の視点での取組も必要。
 - 交通事業者においては、乗ってみたいくなるような魅力ある情報発信が必要。
 - 人口減少・高齢化が進む中、事業者任せだけではなく、国や道、市町村が協力して公共交通体系を守っていくことが必要。
 - 地域公共交通に関する議論は、各地域の将来ビジョンの実現に向けてどういった交通体系が必要かといった観点で進めることが重要。
 - 現状の公共交通体系を今のまま維持することは困難であり、スリム化、コンパクト化が必要。
 - 広域分散型の北海道においては、鉄道、バス、航空機といった交通機関それぞれの特性を活かしながら、相互に補完していくことが重要。